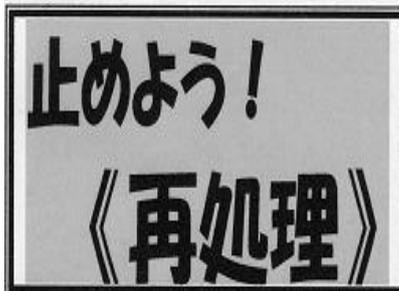


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) **三陸の海・岩手の会**
 郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ《再処理／岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
 2021(令和 3 年)
 6 月 7 日
 第 2 1 8 号
 編集事務局 S. Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

事故前(2008~2011)計 **3人** ⇒ **福島原発事故** ⇒ 事故後(2012~2015)計 **115人**

小児甲状腺がん 罹患者数 事故後急増

福島第一原発事故前の四年間と直後の四年間の甲状腺がんの罹患者数を年齢階級別(二〇歳毎四階級)で算出し比べた。比べたのは、事故前の罹患者数と事故後の罹患者数、

その倍率(事故後の罹患者数/事故前の罹患者数)である。罹患者数の倍率は事故前後の県民総人口の変化を反映していないが、罹患者数の比較とは大きな差はないと考えられる。

「週刊金曜日」の記事(2020/9/11, pp. 20-25)の「表5」から拾った。なお「表5」の該当部分分は全て「全国がん登録」(二〇〇八年から二〇一五年までの概数)【**国**立がん罹患モニタリ

利用したデータ

福島第一原発事故は二〇一一年三月に起きたが、甲状腺がんの潜伏期間を考えると、二〇一一年を事故前のことと考え、二〇〇八年〜二〇一一年の四年間を「事故前」、二〇一二年〜二〇一五年の四年間を「事故後」とする。事故前後の四年間を考えたのは、年単位で考えると福島県の小児甲状腺がんの発生数が小さすぎる数字であるからである。また、年齢階級を五歳とするのも同様に細かすぎると考えられるので、二〇歳とすることにした。

成人の甲状腺がんも増加

事故前四年と事故後四年の合計数の比較

「全国がん登録」に基づく **福島県民の甲状腺がんデータ** か

グ集計」データ)に基づいている。この「概数」というのは、地域がん登録に基づく研究班の「推定値」のことと思われる。

算出の結果

結果を表と図に示す。図は、表の事故前後の罹患者数の倍率をグラフにしたものである(縦軸は「対数」であることに注意)。

表と図からわかること

【①小児甲状腺がんの罹患者数】

男性二〇倍！
女性七五倍！

事故前に対し事故後の小児甲状腺がん(〇歳〜一九歳の罹患者数の倍率は、男性二〇倍、女性七五倍、男女合わせると三八・三倍と極めて大きい。これらの値は津

表 福島第一原発の事故前後の20歳年齢階級別罹患者数と前後の倍率

階層	0歳から19歳			20歳から39歳			40歳から59歳			60歳から79歳		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
事故前	2	1	3	13	61	74	40	124	164	82	177	259
事故後	40	75	115	32	83	115	77	231	308	99	263	302
倍率	20.0	75.0	38.3	2.5	1.4	1.6	1.9	1.9	1.9	1.2	1.5	1.4
差	38	74	112	19	22	41	37	107	144	17	86	10

田敏秀論文(Epidemiol. Inf.)掲載)の「二〇倍か

ら五〇倍」との説とも一致している。

「②小児甲状腺がんと成人の甲状腺がんの比較」
成人の甲状腺がんは比較

ケタ違いの増加

事故前に対し事故後の小児甲状腺がん(〇歳から一九歳までの年齢階級の)の罹患者数の倍率は、二〇歳以上の三つの年齢階級(成人の甲状腺がん)よりも圧倒的に大きい。「桁違い」に大きいと言える。しかも、男性も女性も男女計も、いずれも、「桁違い」に大きい。

「③小児甲状腺がんの多発の原因は？」

小児の放射性ヨウ素被ばくが原因濃厚

上の①と②から、すなわち、事故前後の四年間の比較から、小児甲状腺がんの多発は、福島第一原発事故で放出された放射性ヨウ素による小児の被ばくが原因との疑いは否定できない。これは、市民の通常の感覚だろう。

なお、「この程度の被

